

城西大学附属城西中学校 帰国生入試 問題冊子

国語

【注意】

- ・試験開始の合図があるまで本冊子は開いてはいけません。
- ・解答用紙には略字・略語などを用いず、丁寧に記述すること。
- ・字数指定がある場合は記号や句読点なども一字として数えること。

一 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

外国で、たとえば自動車事故などを起こした場合、絶対にあやまってはいけない、と忠告されたことがある。今は、ほとんど常識になっているうだが、私が最初に海外へ出かけたのは、もう三十年も前のことだから、そんな注意を聞いて、じつに奇妙な気がしたことを、よく覚えている。

じつさい、そうなのである。何かトラブルが発生すると、日本人は、いとも気軽に詫<sup>わ</sup>びてしまう。が、1異国人は、めったにあやまらない。あやまるのは、自分の非をすすんで認めることだからである。

外国人は、たとえ自分の側に非があると思っても、まずは自分の主張を強<sup>こ</sup>弁<sup>べん</sup>し、ときには、横<sup>よこ</sup>車<sup>くるま</sup>としかおもえないような理屈<sup>りくつ</sup>で、非を相手に押しつける。そして、是非は裁判で争おうというわけだ。私がアメリカで異様に思ったのは、何から何までが弁護士の出番になるということだった。

その影響を受けてか、日本でも、近頃はすぐ弁護士に依頼<sup>いらい</sup>するようになった。それでも、日本人は昔ながらの習慣で、できればあやまって事を穏便に済ませようとする。あやまれば相手は許してくれる、と心の奥底で期待しているからだ。

たしかに、日本人は、あやまるのが大好きだ。というのが言い過ぎなら、2あやまることを、それほど苦にしない、と言いかえてもよろしい。おそらくそれは、この国の社会が同質的であり、互いに気心が知れているからであろう。そこで、あやまりさえすれば許してもらえる、と、つい、そう思ってしまうのである。

事実、あやまらないと、争いはいよいよこじれ、外国とは逆に、取り返しのつかないことになる。日本人は、事の是非よりも、むしろ当事者の「誠意」のほうを問題にする。「論より証拠」などというが、証拠<sup>せんとく</sup>を詮索<sup>せんさく</sup>するより、情<sup>うつつ</sup>に訴<sup>う</sup>える方を選ぶ。だから、「論より」A「というほうが当たっている」といよう。

もうずいぶん前のことだが、何かのゲームをしていたとき、私は3へまをやった。「ごめん、ごめん」といつて許してもらおうと思ったら、相手のひとりが「ごめん、ごめん、ごめん、ごめん」と言った。そのころ、そんな文句が常套語<sup>じょうたうご</sup>になっていたのである。

相手は、そう言いながらも許してくれたのだが、そのとき、私はあらためて、なるほど、と思った。たしかに、あやまりさえすれば、すべてが許されるとしたなら、世話はない。この言葉は、あやまり好きの日本人の甘え<sup>あま</sup>に対して、4冷や水を浴びせた名言<sup>めいごん</sup>というべきであろう。しかし、5それは言いながらも、「ごめん」が通用するところに、日本の社会の、良く言えば寛容<sup>かんよう</sup>さがあり、悪く言えば「いい加減さ」があるのではあるまいか。

なぜ、日本で「ごめん」が簡単に通用するのだろうか。それは、「ごめん」という謝罪の言葉が、事の真相をはっきり突きとめたくて自分の非を認め、その非に対して詫<sup>わ</sup>びるといふより、事態が深刻化するのを恐れて、とりあえず相手の気持ちをやわらげておこうという目的で使われ、相手も

6それを充分承知しているからである。つまり、日本人の「ごめん」は、罪の意識をほとんど含んでいないのだ。

「ごめん」にかぎらない。日本人が乱発する詫びの言葉、「すみません」にしても、「申し訳ない」にしても、その意味を考えてみれば、最大級の謝罪の表現である。にもかかわらず、日本人はこれらの言葉を慣用語として多用し、そう言いながら、まるで自分の非を認めていない。したがって、これらの言葉は、謝罪語というより、**B**語とみなすべきであろう。

(森本哲郎「日本語 根ほり葉ほり」)

※強弁……無理にりくつをつけて言い張ること。言いわけすること。

※横車……横に車をおすように、道理にあわないことを無理にすること。

※詮索……細かいところまで、調べもとめること。たずねさがすこと。

※常套語……言いならわしたことば。きまり文句。

※寛容……心が広くゆるやかで、よく人をゆるし受け入れること。とがめだてしないこと。

問一 —— 線1 「異国人は、めったにあやまらない」とありますが、それはなぜですか。説明しなさい。

問二 —— 線2 「あやまることを、それほど苦にしない」とありますが、日本人はなぜそのように言えるのですか。理由としてふさわしくないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 事を穏便に済ませるため。

イ 社会が同質的であり、互いに気心が知れているから。

ウ 誤りさえすれば許してもらえ、と思ってしまうから。

エ あやまらないと、争いがこじれ、外国のように裁判になるから。

オ 事の是非よりも当事者の「誠意」のほうを重視するから。

問三 **A**・**B**に入る言葉をそれぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

<b>A</b>	：	ア	愛情	イ	証拠	ウ	謝罪	エ	情け	オ	穏便
<b>B</b>	：	ア	日本	イ	乱発	ウ	挨拶 <small>あいさつ</small>	エ	常套 <small>じょうとう</small>	オ	寛容 <small>かんよう</small>



二 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

夕食のとき、マコトの「番長宣言」を伝えると、パパは飲んでいたビールをブツとふき出して、「ぼ、番長だつてえ？」と目を丸くした。ママもびっくりした顔になって、「だつて女の子なんでしょう？」といった。おどろいただけじゃなくて、ちよつと怒った言い方だった。

でも、パパは「元気があっていいじゃないか」と笑う。マコトが番長を目指していることが、うれしい——のかな。

「ねえツヨシ、マコトちゃんつて、そんなに乱暴なの？」

「つていうか……弱い者いじめが大嫌いなんだつて」  
ぼくの言葉に、パパは「よし、そうだ。いい番長は『弱きを助け、強きをくじく』なんだよ」と満足そうに言つて、ママも少しだけマコトを見直したみたいだに、ふうん、とうなづいた。

「他にどんなこと言つてた？ なんでもいいから教えてくれよ」

1. パパは身を乗り出してきてきた。 マコトをすっかり気に入ったみたいだ。

「……弱い者いじめを見過ごすのは、もっと嫌い……なんだつて」

2 自然とうつむいて、声も沈んでしまった。

「3 そりやそうだ、いいこと言うなあ、さすが番長だ」

上機嫌に笑うパパも、「そうよねえ、見て見ぬふりをするのつて一番悪いのよね」というママも、気づいていない。

弱い者いじめを見過ごしたサイターのヤツがぼくだったつてこと、きっと両親は夢にも思っていないんだろうな……。

マコトの「番長宣言」は、学校でも大きな話題になった。四年一組はもちろん、休み時間のたびに他のクラスのやつらが教室にやつてきて、「川村マコトつてどんなやつ？」「チョンマゲしてるとつてほんと？」とマコトを探す。

いつも一人だ。どこに行つていいのか、誰も知らない。

教室にいたくないんだろうか。もしかして、四年一組のこと、嫌いなんだろうか。自分のまわりにビミョーに冷たい空気が流れていること、感づいているのかもしれない。

新学期が始まつて一週間、ふつうなら転校生を興味しんしんに取り囲んでおしゃべりするはずの女子が、ほとんどマコトに近寄らない。マコトとしゃべつたコは、決まつて、そのあと教室の後ろや廊下に呼び出される。

「ちよっとさー、あの転校生、生意気っぽくない？」——クラスの女子を仕切っている坪根玲夏つほねれいかが言ったせいだ。「おツボネさま」というあだ名どおり、4あいつは性格がキツイ。勉強やスポーツはよくできるし、顔もけっこうかわいいけど、とにかく負けず嫌いで、意地悪で、ワガママで、いつも自分が主役じゃないと気がすまなくて、女子だけじゃなくて男子もびくびくしている。

そんなおツボネさまを、マコトは怒らせてしまったわけだ。

「番長になるなんて、いばってるよねー、ムカつくよねー、あんたもそう思うでしょ？」

おツボネさまにそう言われると、おとなしいコはなにも言い返せなくなってしまう。黙ってうなづく、「はい、じゃあ決まりね、あんたも『マコト嫌い同盟』だからね。裏切ったら、あんたもマコトの仲間になっちゃうからね」……。

そういうのよくないよ、と思う。5クラス委員として、おツボネさまに一言注意しなくちゃ。

頭ではわかっている。でも、それがなかなか言えない。

屁理屈の得意なおツボネさまは、どうせ「好き嫌いは自由でしょ！」と言い返してくるだろうし、逆恨みされて『ツヨシ嫌い同盟』をつくられるのって……やっぱ怖いし。

(重松清「くちぶえ番長」)

問一——線1「パパは身を乗り出してきてきた」とありますが、その様子を説明したものととしてふさわしいものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア マコトのことが気に入って近くに寄ろうとする様子。

イ ビールを飲みすぎて酔っ払ってきてしまっている様子。

ウ ツヨシが話すマコトの様子に興味がわいている様子。

エ ツヨシの声が沈んでいるのでよく聞きとろうとする様子。

問二——線2「自然とうつむいて、声も沈んでしまった」とありますが、それはなぜですか。わかりやすく説明しなさい。

問三 ——線3 「そりやそうだ、いいこと言うなあ、さすが番長だ」とありますが、「番長」が言った「いいこと」とはどのようなことですか。わかりやすく説明しなさい。

問四 ——線4 「あいつは性格がキツイ」とありますが、その「性格」を具体的に述べている一文を探し、最初と最後の五字を抜き出しなさい。

問五 ——線5 「クラス委員」とありますが、それは誰のことですか。登場人物の名前で答えなさい。

問六 本文には次の一文が抜けている。それを元の場所にもどしたときに、その直後の五字を抜き出して答えなさい。

【でも、当のマコトは、休み時間になると必ず教室の外に出て行ってしまおう。】

【三】 次のそれぞれの問いに答えなさい。

問一 次の①～⑤の文の空らんに入ることばをあとの【語群】から選びなさい。

- ① けんた君  今小学校六年生です。
- ② 私  好きな食べ物はラーメンです。
- ③ ボール  けったら遠くに飛んで行ってしまった。
- ④ ゴール  向かってダッシュする。

【語群】

が ・ と ・ に ・ は ・ を

問二 次の①～⑤の文を指示にしたがって内容が同じになるように書き換えなさい。

- ① 太郎君が先生にしかられた。（「先生が」から始まる文にする。）
- ② ひろし君が遠くで私を呼んだ。（「呼ばれた」で終わる文にする。）
- ③ 運動会で優勝したのは赤組です。（「赤組が」から始まる文にする。）
- ④ クッキーが機械によって次々と作られました。（「作りました」で終わる文にする。）

問三 例にならって傍線部のことばの主語を答えなさい。

例 私はもうすぐ中学生になる。 主語：私は

- ① 飛んできたボールが、顔に当たった。
- ② コーチが声をかけてくれたおかげで、私はリラックスできた。

- ③ 今日は冷たい風が吹いていて寒い。
- ④ 私は先生が言った言葉を忘れない。

問四 次の①～⑤の（ ）内の言葉を適切な形に直しなさい。

- ① (笑う)ながらマンガを読む。
- ② 空を(見上げる)ば、そこは満天の星空だった。
- ③ ゴールの角を(ねらう)てシュートを打つ。
- ④ テレビを(見る)ないで勉強する。

問五 傍線部分を正しい敬語表現に改めなさい。

- ① あなたのことは私から先生におっしゃっておきます。
- ② 電車が到着されますので、白線の内側でお待ちください。
- ③ 加藤さん、おりましたら受付までいらしてください。